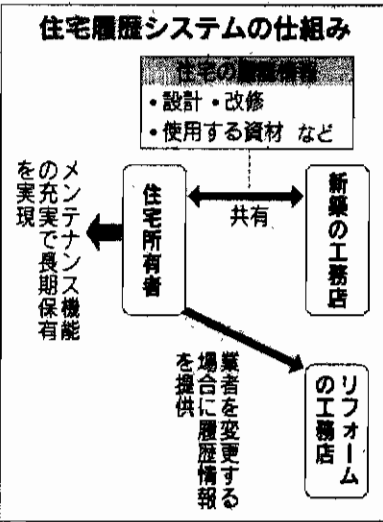


工務店向け管理システム

住宅履歴所有者と共有

ソフトベンチャーのH-I-S-O(ハイソ、仙台市、小野寿光社長)は住宅の設計や補修、使用した資材などに関する情報を簡単に管理できるシステムを開発した。住宅の「履歴書」をデータベース化して業者と所有者が共有することで、設備の修理や改築、売買などが円滑に進むよう後押しする。独自のシステムを持たず、紙でデータを保管している中小の工務店を対象に、六月から本格的に販売する。

ソフト開発のH-I-S-O



設計や資材情報 時系列で蓄積

開発した「e家カルテ・エコノミー」は通常のパソコンで、PDF形式やCAD(コンピュータによる設計)といった一般的なソフトで図面や書類などを入出力。工務店などは顧客や保守点検を手がける業者から受け取ったリフォームなどの履歴情報を、時系列で簡単に蓄積できる。

保存したデータベースの検索機能も持たせた。導入する際の初期費用は約二十万円。国土交通省から二〇〇八年度の「超長期住宅先導的モデル事業」に採択された。ソフトのレンタル販売も含めて〇九年度中に二百―三百社の採用を目指す。

中小の工務店は設計図

面など施工時の情報を紙で保存していることが多く、業者が倒産したり、住宅所有者が関連書類を紛失したりすれば設備の詳細が把握できず、増改築や物件の売却が難しくなる。履歴情報を共有し蓄積しておけば、こうした事態を回避できる。

また、政府は数世代にわたり住み続けることができる「二百年住宅」の

普及を掲げている。六月施行予定の「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」では、「住宅履歴書」の作成などの基準を満たせば、税制やローンなどの面で優遇措置を受けられるようになる。

同社は建設業などに住宅の履歴情報を一元的に管理する第三者機関の設置を呼びかけていく方針。中小業者が手がけた

優良住宅の価値を客観的に評価できる体制を整え、中古住宅市場の活性化につながる可能性があるといる。

H-I-S-Oは〇二年設

立の研究開発型ベンチャー。資本金は三千五百万円。東北大学や日立プラントテクノロジーなどと養殖の水質管理システムを手掛けた実績がある。